

# 燃料化手法の早期実施に関する提言

## 1. 地球温暖化対策に貢献する価値のある手法の行使を

次世代に継承し得る環境政策を講じて行く場合に、環境負荷を如何に最小限に抑えるか、経済合理性を如何にして維持するかは重要な要因であり、多種多様な方法が考えられます。特に現在、恒久的な課題として、世界規模で取り組まれております地球温暖化対策は、廃棄物の処理においても十分に考慮されなければなりません。

こうした観点からも、廃棄されたプラスチック製容器包装は有効に活用すべきであり、地球温暖化対策、資源代替性、社会的総コスト低減等に貢献し得る価値ある手法の実施が強く望まれます。特にLCA評価で優位にない材料リサイクル優先の撤廃、地球温暖化対策に有効なRPFの早期実施を望みます。

## 2. 早期に燃料化手法を導入し、エネルギーの地産地消を

プラスチック製容器包装の再商品化手法として固形燃料（RPF化）を早期に実施すべきです。これは産業界のニーズが極めて高く、社会的総コストの低減にも貢献する可能性を有し、環境面では、化石燃料代替性、CO<sub>2</sub>削減効果が高いことが実証され、JIS化も実施されて技術的な裏付けもあるからです。

然も、RPFが利用可能な省資源型の新エネボイラーは全国に普及しており、正に地産地消が可能で、地域の活性化にも大きな期待が持てると確信されます。こうした価値を追求した手法の行使を実施すべきです。

そのために、

- (1)プラスチック製容器包装再商品化における「固形燃料等の燃料として利用される製品」の付加条件（緊急避難的、補完的）を即時撤廃すべきです。
- (2)「プラスチック製容器包装に係る固形燃料等の燃料として利用される製品を得るための施設等に関する技術指針」におけるエネルギー利用率を即時緩和すべきです。

## 3. 事業者の決意

全ての事業者は社会的責任を果たすべく事業活動の中で、これまでも化石燃料をはじめとするあらゆる資源の節減に努力して参りました。

今後も技術開発を継続し、資源節減に向けた積極的な取り組みを進めていく所存です。容器包装の分野でも3Rを推進してまいりますので、プラスチック製容器包装を含めた廃棄後のプラスチックにつきましても、国の強力なリーダーシップのもとに、環境と経済が両立する施策の実施を願うものです。

(尚、詳細データ等を補足文書として添付致しました。)